



松明

(平成30年5月発行・隔月発行) 2018 vol.3



福島病院と今春の桜



脳神経内科診療が始まりました

副院長 杉浦嘉泰

当院では昨年10月に神経内科医が1名着任し、本年4月に2名が加わり、神経内科専門医3名体制で脳神経内科の診療が始まりました。これまで25年間福島県立医科大学で神経筋疾患の診療に携わって参りましたが、本県では慢性期の神経難病の患者さんを、神経内科医が長期的にフォローできる施設が限られておりました。このため、外来通院が困難となった慢性期の神経難病の患者さんに、長期的に神経内科医が関わる機会が十分とは言えませんでした。当院脳神経内科では、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症といった神経変性疾患や多発性硬化症など神経難病を中心に、神経疾患の診断と治療を進めてまいります。中でも、慢性期の神経難病の患者さんの薬剤調整あるいはリハビリテーション目的の入院療養や、在宅療養されている患者さんのレスパイト入院といった地域に根付いた慢性期神経難病診療は、重症心身障害児(者)医療とともに、政策医療を担うべき国立病院機構という当院の特色を生かした重要な柱と考えております。こうした当院の役割を全うすべく、4月から理学療法士および作業療法士を増員し、入院でのリハビリテーションの充実をはかってお

ります。

また、わが国は超高齢化社会を迎え、高齢者人口の増加に伴い、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症等の神経変性疾患の患者数は年々増加しております。当院ではCTやMRIといった画像検査に加え、末梢神経伝導検査、筋電図、誘発電位等の神経生理学的検査も本格的に稼働し、総合的に神経疾患の診断と治療ができる体制を整えております。

当院では氏家院長を中心とした小児科のチームによる重症心身障害児(者)診療が大きな柱ですが、このたび脳神経内科による神経難病診療が加わり、二本柱で福島県の難病医療に貢献できるよう努めて参ります。



末梢神経伝導検査の様子

本号のご案内

- 脳神経内科診療が始まりました 1
- 看護学校日より 看護学校入学式 6
- 脳神経内科についてのご案内 2
- 全学年交流会 6
- 看護部日より 新採用者研修奮闘記 2
- 療育日より 思い出のアルバム 7
- 永年勤続表彰式 3
- 健康プラザ 脱水症について 7
- 職員紹介 人事のご案内 4
- 外来担当医表 8

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

脳神経内科についてのご案内

地域医療連携係長 鈴木 仁子

福島病院は4月から、脳神経内科医師3名体制で診療が始まりました。

脳神経内科とは、脳、脊髄、顔や手足の神経、筋肉の病気を診療する内科です。主な症状としては、頭痛、めまい、物忘れ、意識障害、立ちくらみ、物が二重に見える、うまく話せない、手足のしびれやふるえ、けいれん、力が入らない、歩きにくい、転びやすい、神経痛などです。診断、治療、リハビリテーションだけでなく療養生活の支援、福祉制度の利用まで一緒に考えて参りますので、ご心配をおかかえの方はご遠慮なくご相談してください。

脳神経内科スタッフ紹介

副院長 杉浦 嘉泰 (神経内科専門医)
脳神経内科医長 根本 和夫 (同上)
脳神経内科医長 伊藤 英一 (同上)

診療案内

月	火	水	木	金
伊藤	根本	伊藤	根本	杉浦

●診療時間 9:00～11:30

予約制：予約専用ダイヤル0248-75-2259
(予約受付時間は、9:00～12:00、13:00～17:00となっております。)

連絡先

●地域医療連携室

TEL：0248-75-2279 (直通電話)

FAX：0248-75-2569

看護部だより

新採用者研修奮闘記

教育担当看護師長 菅原 由香里

今年度は、新卒4名・既卒11名、計15名の看護師を新たにお迎えすることができました。例年になく沢山の看護師採用となり、新採用者看護技術研修にも気合いが入ります。その結果、4月5・6日の2日間で10種類の研修を企画するという強行運営となりました。それでも一生懸命説明に耳を傾け、熱心に看護技術演習に取り組んで頂きました。既卒の方は、食事介助・口腔ケア、吸引・経管栄養の研修に自主的に参加してくれました。中でも人工呼吸器の研修には非常に関心が高く、研修担当者に様々な質問をし、1つでも多く理解しようとしていました。それでも不安は強いと思うので、今後も病棟やRSTで継続した学びができるようご支援いただきたいと思えます。

新卒の方はひたむきに研修に参加しているのが印象的でした。特に採血では、お互いに採血したため、とても慎重に実施していました。皆さん1回で成功しており、他の看護技術も手際よくスムーズにできていたと思います。今後に期待できそうな頼もしい新人さんですね。

今年度から旧2病棟の奥に「演習室」を作り、そこで看護技術研修を行いました。看護学校の演習室のようなイメージで作りましたので、興味がある方はのぞいてみてください。研修生の皆さん、研修担当者の師長さん副師長さんお疲れ様でした。



永年勤続表彰式

新人看護師から 30 年経ちました

30 年勤続代表者 附属看護学校 教員 原田典子
看護学校を卒業し、わくわくドキドキして病棟スタッフの方々やそのとき入院されていた患者さんに挨拶したのは、はるか昔のことです。2～4 年先輩の看護師の方には、いろいろと相談をしたり、プライベートでも仲良くなった先輩もいました。

看護師に求められることは、時代とともに変化していますが、患者さんや家族の方との心を揺さぶられる出会いを通して、看護を磨くことは今も昔も変わらないと思います。泣いたことも笑ったこともたくさんのエピソードがありますが、その経験は、現在の自分の要となっていることは間違いありません。また、当時の私に看護力をつけていただいた先輩看護師の方々にも感謝でいっぱい、楽しい看護師生活でした。これからも看護力を重ねられるよう努力いたします。

永年勤続表彰をいただいて

20 年勤続代表者 企画課 専門職 後藤紀幸
この度は永年勤続にて表彰いただき、誠にありがとうございます。ございます。

私が採用になって以降、数多くの先輩方がこの表彰を受けたのを見てますが、自分は先輩方のように長く働くことができるのだろうかと不安になっていたのを思い出します。

この表彰は、私にとって身に余る栄誉であるだけでなく、この 20 年を振り返る良い機会となりました。

採用以降、職場や職場外で数多くの方と出会うことができました。その数多くの方から多くのことを教わり、さまざまな経験をさせていただきました。今自分があるのは、その方々のおかげだと思います。

これからも人との絆を大切にし業務を行っていきたくと考えております。今後ともよろしく願いいたします。



永年勤続30年以上表彰者



永年勤続20年以上表彰者

今年度から、全職員対象に永年勤続表彰式が行われました。



永年勤続30年以上表彰者



永年勤続20年以上表彰者



永年勤続10年以上表彰者

表彰された皆さん、永年勤続表彰おめでとうございます。今後も健康に留意され、一層活躍されることをご期待しております。

職員紹介 人事のご案内 (新しい)



脳神経内科医長
伊藤 英一 (いとう えいいち)

- 出身地：秋田県能代市
- 趣味：読書、史跡の訪ね歩き

本年4月より福島医大から赴任しました。脳神経内科の一員として当院の発展に微力ながら努めたいと念じております。須賀川市は円谷英二の故郷でウルトラマンの街ということをごちに奉職して初めて知りました。街の通りにタロウやバルタン星人が屹立していて、懐かしく感じました。今後とも宜しく願い申し上げます。



看護部長
佐々木 奈美子 (ささき なみこ)

- 出身地：秋田県
- 趣味：歩くこと

この度、はじめて福島県にお世話になります。4月に赴任しまして、福島の暖かい気候と人柄にふれ、心がフワッとしました。福島病院の持てる診療機能と職員の力を統合し、地域に貢献していきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。



撮影透視主任
柏倉 雅代 (かしわぐら まさよ)

- 出身地：栃木県
- 趣味：音楽鑑賞

4月に弘前病院より異動してきました。これまでに宮城県、岩手県、青森県に赴任したことがありますが、福島県は初めてになります。須賀川は弘前と比べると雪が少ないし暖かくて良い所だなと思っています。新しい環境に早く慣れるように頑張りますのでよろしくお願い致します。



理学療法士
中澤 洋祐 (なかざわ ようすけ)

- 出身地：宮城県仙台市
- 趣味：特になし

約7年ぶりに福島県に戻ってきました。郡山市在住で、再び家族と自宅で生活できることに幸せを感じております。福島の医療に貢献できるように、精一杯努力してまいりますので、よろしくお願い致します。



看護師長 (第3病棟)
大平 由利子 (おおひら ゆりこ)

- 出身地：福島県いわき市
- 趣味：読書

この度、山形県米沢市、米沢病院から転勤してきました。米沢は山形県人にも「暑くて寒いところ」と称されるように雪が大変多く、毎年のように転びました。須賀川にきまして、宿舍の外廊下に覆いがなく「雪がないんだあ」とじ〜んとしています。福島病院は隣に翠ヶ丘公園等散歩にはもってこいの環境です。メタボ解消を目指し、また健康増進にむけ天気の良い日は朝の散歩を日課にしたいと思っております。よろしくお願い致します。



看護師 (第6病棟)
円谷 麻実 (つむらや あさみ)

- 出身地：福島県須賀川市
- 趣味：カフェ、ライブ、バドミントン

国立宇都宮病院より転勤で参りました円谷麻実です。国立福島病院付属看護学校の8回生です。少しでも早く職場環境や患者さんの特性を知り、患者さんの持てる力引き出しつつ、自分らしい看護を提供できるよう頑張ります。これからよろしくお願い致します。



業務班長
斉藤 晃 (さいとう あきら)

- 出身地：青森県北津軽郡板柳町
- 趣味：車、オートバイ

この度、岩手病院から異動してきました。福島病院での勤務は初めてですので、早くこちらの病院と風土に慣れて、病院運営に貢献できればと思っています。福島県は広いので、観光地もいろいろあると思います。是非、情報提供いただければと思っています。観光も仕事も頑張りたいと思っていますので、よろしくお願い致します。



療育指導室長
佐々木 京太 (ささき きょうた)

- 出身地：宮城県石巻市
- 趣味：映画鑑賞、中国的数合遊戯

岩手病院より異動してきました。今回は、初めての職場長、そして初めての単身赴任ということで、公私ともに環境が大きく変わりました。毎朝淹れるコーヒーと週末に妻子の顔を見ることを原動力に、アクセル全開で福島病院に尽くす所存です。ブレーキを踏み忘れないよう頑張りたいと思っております。

仲間共々よろしくお願ひします。)



教育主事

山田 則子 (やまだ のりこ)

- 出身地：福島県
- 趣味：旅行

仙台医療センター附属仙台看護助産学校より異動してまいりました。5年ぶりに地元勤務となり、改めて人とのつながりや絆を実感しながら毎日過ごしております。病院も学校もだいぶ様変わりしましたが、福島の純粋で素直な学生たちを、将来を担う自律した看護師に育て地域に貢献できたらと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



副臨床検査技師長

葛西 淳 (かさい あつし)

- 出身地：青森県弘前市
- 趣味：ドライブ、映画鑑賞

弘前病院で臨床検査技師のキャリアをスタートさせ、仙台医療センター、仙台西多賀病院と異動して参りましたが、技師が3人の職場は初めての経験になります。一日でも早く職場に慣れ、福島病院の力になれるよう日々精進して参ります。未永くよろしくお願ひいたします。



理学療法士

米通 峻哉 (こめどおり りょうや)

- 出身地：岩手県
- 趣味：スポーツ(何でもいけます)、猫カフェ

今年度4月から入職した米通峻哉と申します。社会人1年目なのでわからないことがたくさんありますが患者さんのために積極的に学び、学んだことを活かすように頑張りたいと思います。

早く新しい職場、生活の環境に慣れていきますので、皆様これからよろしくお願ひいたします。



作業療法士

山本 圭人 (やまもと よしひと)

- 出身地：北海道
- 趣味：運動(陸上競技)

北海道中富良野町出身の山本圭人です。大学は秋田大学でした。

ご縁ありまして福島病院に勤めさせていただくことになりました。福島県須賀川市には初めて来ました。一年目とまだまだ未熟ですが、一日でも早く病院の力になれるよう頑張ります。これからよろしくお願ひいたします。



看護師(第5病棟)

上妻 希望 (あがつま のぞみ)

- 出身地：福島県須賀川市
- 趣味：野球観戦、バレー観戦

4月から新人看護師として5病棟に配属となりました。わからないことがたくさんありますが、1日も早く職場環境や業務に慣れ、患者さん一人一人の特徴を捉えながら関わっていきたくと思います。そして重病棟のため、日々安全に患者さんに看護ケアを行っていきたくと思います。よろしくお願ひします。



看護師(第6病棟)

黒沢 友恵 (くろさわ ともえ)

- 出身地：福島県須賀川市
- 趣味：音楽鑑賞

この度、看護師として新採用となり4月から6病棟に配属となりました。実習でもお世話になった福島病院に勤められることを嬉しく思います。患者さんの特徴を理解し業務を覚え、患者さんが安心して生活できるよう根柢を持ってより良い看護を提供できるよう努めて参ります。



児童指導員

菅井 香織 (すがい かおり)

- 出身地：山形県
- 趣味：読書、旅行

4月より児童指導員として採用になり、5病棟で勤務させていただきます。福島県での生活は初めてです。まだまだ不慣れなことが多くご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、患者さんに寄り添った支援ができるように努めていきたくと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。



保育士

金澤 悠 (かなざわ ゆう)

- 出身地：福島県須賀川市
- 趣味：音楽鑑賞

この度採用となり、5病棟配属になりました。まだまだ覚えることが多く、不慣れな毎日ですが、日々、患者様の笑顔や、新しい一面を発見し、元気をもらっています。少しでも早く仕事に慣れ、患者さんに充実した活動の提供ができる一因となれるよう、頑張っていきたいと思っています。これからよろしくお願ひいたします。

看護学校だより 看護学校入学式

入学生代表 附属看護学校 15 回生 岩崎月楓

私たち 15 回生は、4 月 5 日（木）に福島病院附属看護学校、最後の入学生として、入学しました。はじめは、友人関係が上手くいか、不安がありました。が、クラスメイトはとても優しく、クラス目標や、役割分担を決める際にはたくさんの意見が飛び交い、とても雰囲気の良いクラスだと感じました。先輩方や先生方は、分からないことだらけの私たちに優しくご指導してくださり、不安もありませんが、これからの学校生活が楽しみになりました。

そして、クラス目標である、「皆で協力して苦手を克服し、看護の知識や技術を身につけ、チーム医療の土台を作れるよう、学び続けていきたい」と思います。

祝福して頂いた皆さま、本当にありがとうございました。

3 年生代表 附属看護学校 13 回生 佐藤那月（15 回生へのエール）

15 回生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆様のご入学を在校生一同、心から歓迎致します。本校は政策医療を担っている福島病院の附属看護学校です。本校では様々な講師の方の授業、先生方のご指導により専門的な知識と看護を学ぶことができます。実習では専門的な領域を学ぶため看護の知識をより深めることができます。看護を学ぶ上で辛いこともあります。が、患者さんの笑顔や言葉が大きな喜びや、やりがいとなり看護を学ぶ楽しさを実感しています。学校生活では行事やボランティア活動に学年を超えて取り組み、親交を深め充実した時間を過ごせます。皆さんが楽しく生活を送れるよう私たちは協力を惜しみません。一緒に頑張りましょう。



看護学校だより 全学年交流会

附属看護学校 14 回生 大友優依

4 月 20 日（金）に全学年交流会を開催しました。学年縦割りのグループ対抗だけではなく同学年の交流を深めるため学年対抗の競技も実施しました。グループ対抗長縄では、飛んだ回数で勝敗が決まるため、飛ぶ人や縄を回す人全員の団結が特に必要です。グループ全員で声を掛け合ったり、励まし合ったりと団結し合っていたと感じました。また、バレーボールやリレーでも団結していると感じました。さらに、競技中は応援の声や喜びの声などで盛り上がるのができたと感じます。学年対抗ドッジボールでは、作戦を考えたり、作戦を基に練習をしたりとクラスメイトとより交流を深めることができ嬉

しく感じました。また、普段見ることの出来ないクラスメイトの姿も見ることができ、会場中が盛り上がりました。全学年交流会は全校生、教員の親睦を深めることが目的です。グループのメンバー、クラスメイトと共に全力で競技に取り組み、全力で喜び、悔しがるなど、短時間でしたが交流を深めることができたと感じます。運営するにあたって、多くの人に簡潔に分かりやすく伝えることの難しさや報告、連絡、相談の重要性を改めて感じました。今回の交流会で得ることの出来た絆や学び、経験を通して、今後も看護学生としての自覚を持ち、日々勉学に励んでいきたいと感じます。



3月14日（水）に1年を振り返る行事「思い出のアルバム」を行いました。

4月から撮り貯めたたくさんの写真を各病棟、思い出のエピソードとともに大きなスクリーンに映し出しました。前年度にはたくさんの行事が重症心身障害者病棟で実施され、今までにないほどの多くの思い出ができたのではないかと思います。また、午後の療育活動の時間も長く設定し、様々な面での充実がみられた一年となりました。季節ごとに並べられた写真を眺めながら、思い出しきれないほどの沢山のシーンを振り返っていききました。その時の様子を思い出し、笑みを浮かべる患者さん、一つひとつの思い出を回想するようにじっくりスクリーンを眺める患者さん、様々な思いで1年を振り返っていたようです。時には写真を見て患者さん、家族の方にエピソードをお聞きし、場面をより鮮明にさせていただきました。どの写真の中にも、笑顔が多く、楽しそうに過ごす患者さんの姿が見られ、その場が和やかな雰囲気でも包まれました。家族の方からは「思い出のアルバム、良いね」、「楽しみにしてる」等の声も聞かれ、普段の患者さんの様子を伝えていくことの大切さを再度実感しまし

た。時の流れは驚くほどに早く1年があっという間に過ぎ、また春が来て新しい1年が始まります。今年度も笑顔の写真が増えるような1年にしましょう。



今回は脱水症とその対策について説明します。

体に含まれる水を「体液」と呼びます。体液は体の60%を占める水分とミネラル、タンパク質などで構成され、栄養素の運搬や老廃物の除去、体温調節、新陳代謝など生命維持に関するさまざまな役割を果たしており、脱水症を引き起こすとさまざまな症状が現れます。

脱水症は、食べ物、飲料水などの体に入ってくる水分と尿や便、汗などの体から出ていく水分のバランスがくずれ、体内の水分とミネラルの一つである塩分が不足している状態をいいます。

特に、脱水状態になりやすい子供と高齢者には注意が必要です。

脱水症状を起こしたときは水分の補給がかかせませんが、どのような水分を選ぶかが大切になってきます。

水分と塩分が失われている状態で水だけを飲むと、水が増えることによって体液が薄まり、体液のバランスを保とうとして、増えた水が尿として出てしまい、水分と

一緒に塩分も排泄されてしまいます。

最も効果的な方法は、経口補水液を摂取する方法です。経口補水液には吸収力をアップする塩分と吸収速度をアップする糖分がバランスよく含まれています。一般的なスポーツドリンクは、経口補水液よりも塩分が低く、糖質濃度が高くなっています。通常の水分補給であれば、スポーツドリンクでも十分ですが、下痢や嘔吐、発熱などで脱水状態になってしまったときは、経口補水液が適しています。

なお、経口補水液は医師の指導により、お飲みください。



●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【平成30年5月1日より】

区	分	月	火	水	木	金
内科	1	安田千尋	安田千尋		大戸 斉※	安田千尋
内科	2	佐藤由紀夫 (第1・3)				
検	査				安田千尋	
脳神経内科		伊藤英一 (予約制)	根本和夫 (予約制)	伊藤英一 (予約制)	根本和夫 (予約制)	杉浦嘉泰 (予約制)
小児科		石井 勉(2・4) 福島医大	氏家二郎 勉	廣瀬千穂	氏家二郎	河原田 勉
専門外来 (発達小児クリニック)			氏家二郎 勉			河原田 勉
専門外来 (小児神経外来)		平山恒憲 (第2)			石井希代子(1・3・5) 加藤朝子(2・4)	
専門外来 (小児循環器外来)				桃井伸緒 (第2・4)		
小児専門外来				予防接種 (午後)		
整形外科		古川浩三郎 (予約制)	古川浩三郎 (予約制)	古川浩三郎 (予約制)	古川浩三郎 (予約制)	古川浩三郎 (予約制)
小児外科					清水裕史	
脳神経外科			福島医大 (第2・4)			

※小児神経外科は再来のみとなります。

※大戸斉先生の診療日についてはお問い合わせください。

- 外来受付時間は8:30～11:00までです。急患については随時受付いたします。
- 外来担当医表は平成30年5月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

●専用ダイヤルができました●

診療のお問い合わせ・ご相談(月～金 8:30～17:15)

診療の予約・変更等(月～金 13:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

フレッシュな新人や経験を積んだ新採用者、経験豊富な転任者の方々を迎え福島病院の新年度がスタートしました。今年度も福島病院の理念「納得の医療で地域に貢献」という気持ちを一つにチームワークで頑張りましょう。(編集委員 S)



Fukushima National Hospital
独立行政法人国立病院機構

福島病院

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地
☎0248-75-2131 (代表)

<http://fukushima-hosp.com/>